

平成 16 年 2 月 17 日
人と防災未来センター

災害対策専門研修「特設コース」
実施結果

人と防災未来センターでは、重要事業の1つとして、人材育成事業を推進しており、その一環として、地方公共団体の防災担当者等を対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコース等を実施し、好評を博しているところである。

センターでは、今年度からの新たな取り組みとして、マネジメントコース受講者からも要望の高かったテーマ・対象者を限定した「特設コース」を設定することとし、下記のとおり実施した。

記

1 コース別受講者数

「図上訓練」コース	平成 16 年 1 月 26 日(月)~1 月 27 日(火)	40 人
「小規模自治体防災」コース	平成 16 年 2 月 2 日(月)~2 月 3 日(火)	22 人

定員/「図上訓練」コース：28 人、「小規模自治体防災」コース：20 人

「図上訓練」コースは 60 人の受講希望があったため、定員枠を 40 人に拡大した。

2 受講者の所属

(1)「図上訓練」コース

北は北海道から南は鹿児島市まで、全国各地から参加があった。

	兵庫県	近畿 (兵庫県除)	北海道	東北	関東	中部	中国・ 四国	九州	総計	団体数
府 県	1	3	1	1	1	0	3	0	10	10
市 町	7	9	0	0	2	10	1	1	30	30
総 計	8	12	1	1	3	10	4	1	40	40

(2)「小規模自治体防災」コース

地域別

兵庫県	近畿 (兵庫県除)	北海道	東北	関東	中部	中国・ 四国	九州	総計	団体数
3	6	0	0	2	6	3	1	22	21

人口規模別

~ 10,000	10,000 ~ 30,000	30,000 ~ 50,000	50,000 ~ 80,000	80,000 ~	総計
2	8	4	5	3	22

3 評価と課題

(1) 「図上訓練」コース

全国各地から定員を大幅に超える受講希望がある等、地方自治体における「図上訓練」への関心の高さがうかがえた。

- ・研修に対する満足度の点数評価（100点満点）の平均点は91.7点であり非常に高い評価を得た。
- ・受講者レポートの記載内容から判断すると、当コースの目的である「図上訓練を体験する中で図上訓練の内容と効果を知る」については達成できたものと推察される。一方で、各自治体において図上訓練の企画者・統制者となる受講者も多かったため、「プレーヤーだけでなくコントローラーとしても参加したかった」等の意見が散見された。
- ・図上訓練実施後に全参加者による図上訓練の評価・ディスカッションを設定したところ、「図上訓練で得られた初動対応のイメージが、評価・ディスカッションを通じてより深まった」「分析・評価を行うことの必要性が分かった」等の意見があった。
- ・今回の図上訓練では、当センターが開発した「災害対応演習システム」の機能を最大限活用して実施したが、訓練直後に対応記録を参照しながら評価・ディスカッションが行えるなど、同システムに対して受講者から高い関心が寄せられた。

(2) 「小規模自治体防災」コース

テーマとしても新しいものであり試行錯誤の中で企画・実施したが、概ね高い評価を得た。

- ・研修に対する満足度の点数評価（100点満点）の平均点は88.8点であり高い評価を得た。
- ・特に、実際に大規模災害に対応した小規模自治体職員からの講義が非常に高い評価を得た。
- ・一方で、2日間という制約に理解を示しつつも、「それぞれの内容をより掘り下げて取り上げるべきではないか」「受講者間の意見交換の時間をもっと取ってほしい」という意見が散見された。

4 センターの対応

センターとしても新しい試みであったが、両コースとも高い評価を得た。

センターとしては、今回の成果・課題を踏まえて内容の拡充を図り、次年度以降も引き続き「特設コース」を実施していく予定である。

各コースの概要は別添のとおり

研修風景

「図上訓練」コース



図上訓練の様子



図上訓練を統制する秦専任研究員



図上訓練評価・ディスカッション
(グループ評価)

「小規模自治体防災」コース



小規模自治体対応事例



討論会
(センター展示部門を活用)



危機管理総論 - 小規模自治体のために -
(河田センター長の講義)

人と防災未来センター「災害対策専門研修」特設コース 「図上訓練」コース

1 本コースのねらい

近年、防災関係機関を中心としてロールプレイング方式の図上訓練が注目され、実施する機関も増えており、図上訓練に対する関心も高まっている。ここでいう図上訓練とは、「一定の役割を付与された訓練参加者とグループが、擬似的な災害状況下で、決められた役割に従って災害対応行動を行う実践的な訓練」のことである。従来から実施されているシナリオが決まっているいわゆる「展示型訓練」とは異なり、訓練参加者は自らの行動を自らの判断で決めなければならない、擬似的な災害状況下での意思決定を訓練することが可能となる。一方、図上訓練を実施するに当たっては、訓練の企画、シナリオ作成など、専門的知識が必要であり、多くの手間と時間がかかることから、積極的に図上訓練を活用している自治体はまだ一部に限られているのが現状である。

本コースでは、図上訓練の初心者を中心に、図上訓練の内容と効果について実際に図上訓練を体験する中で学ぶと同時に、初動対応期における対応の要諦について座学・演習を通して実践的に学習していただく。

2 本コースの特徴

(1) 図上訓練を通して初動対応の要諦を実践的に演習

大規模震災時における初動6時間の対応を、都道府県および市町村のプレーヤとして演習する。災害対策本部活動、被害概要の把握、応援要請、消火・救出、医療救護、避難所運営、緊急輸送路の確保等の緊急対応期から応急対応期に向けた様々な対応課題について学習するとともに、意思決定能力を養う。

(2) 人と防災未来センターが開発した「災害対応演習システム」を活用した図上訓練

人と防災未来センターでは、災害対応を実践的に訓練することが可能な「災害対応演習システム」の開発及び改良を行ってきた。当センターが開発した「災害対応演習システム」は、従来の図上訓練の欠点である、訓練結果の記録、訓練進行管理、訓練結果の評価などを容易にし、各プレーヤはInternet/Intranetを通じた端末を通して参加可能であり、遠隔地での訓練を可能にするものである。災害時におけるグループ間の連携を効果的に演習し、訓練後の評価も適切に行うことが可能となっている。

3 カリキュラム

1日目(1月26日〔月〕)

10:00～10:45

1限：コース全体のオリエンテーション(コース概要説明、図上訓練概論など)

講師：秦康範 専任研究員

10:50～12:20

2限：図上訓練の事例紹介(市、県の取り組み)

講師：平山隆之 明石市総務部防災安全課主幹兼係長

濱田貴史 兵庫県企画管理部防災局防災企画課防災訓練係

13:30～14:50

3限：図上訓練の現状と災害対応演習システムのオリエンテーション・解説

講師：坂本朗一 株式会社防災&情報研究所主幹研究員

内容：DIGや状況創出型訓練(ビジョンの設定等)などの解説

図上訓練のオリエンテーション

「災害対応演習システム」の解説、デモと体験

14:50～15:50

4限：展示施設見学

16:00～17:10

5限：震災時における消防本部の初動対応

講師：石田秀欣 神戸市消防局警防部救急救助課主査

17:30～19:10

6限：図上訓練のための事前協議

講師：高梨成子 株式会社防災&情報研究所代表

坂本朗一 〃 主幹研究員

中澤言一 〃 研究員

2日目（1月27日〔火〕）

9:00～12:00

1限～2限：図上訓練の実施（発災～6時間後）

統制班：高梨成子	株式会社防災&情報研究所代表
坂本朗一	〃 主幹研究員
中澤言一	〃 研究員
小坂真司	兵庫県企画管理部防災局防災企画課防災訓練係長
松尾富貴	〃 主査
濱田貴史	〃 防災訓練係
石田秀欣	神戸市消防局警防部救急救助課主査
秦康範	専任研究員
永松伸吾	専任研究員

13:30～17:00

3限～4限：図上訓練結果の評価及びディスカッション

講師：図上訓練の統制班

人と防災未来センター「災害対策専門研修」特設コース
「小規模自治体防災」コース

1 本コースのねらい

現在及び将来において我が国の市町村の大多数を占める小規模自治体の防災力の向上は喫緊の課題であるが、人員面・財政面の制約を特に強く受ける小規模自治体の特性もあり、遅々として進んでいないのが実態である。

また、「小規模自治体防災のあるべき姿」については、これまであまり検討されてこなかったため、正解がない状況である。

そこで、専門家からの講義や受講者間の議論を通じて、小規模自治体のメリット（比較的強いコミュニティ等）を活かした対策など、小規模自治体であればこそ可能な対応等について探ることを目的として本コースを開催する。

2 対象者・定員

防災専門の部署（例：消防防災課）を設置していない市町村の防災担当職員（役職は問わない）20 名

3 カリキュラム

別紙のとおり

「小規模自治体防災」コース カリキュラム

2月2日(月)

10:00～11:30

1 限：開講式・オリエンテーション

(10:00～11:10 オリエンテーション等 11:10～「1.17シアター」等視聴)

12:45～14:15

2 限：小規模自治体による災害対応事例

講師：長井保男 北淡町住民生活課長(当時：災害対策本部事務局員)

菅井竜彦 西枇杷島町議会事務局長(当時：総務部長)

概要：北淡町(阪神・淡路大震災/1995)及び西枇杷島町(東海豪雨/2000)の当時の対応(直前対応、救助・避難所運営等応急対応、復旧・復興対応等)の現実について学ぶ。

14:30～16:00

3 限：小規模自治体による災害対応事例

講師：永松伸吾 専任研究員

秦康範 専任研究員

福留邦洋 専任研究員

概要：水俣水害(2003)を例に、小規模自治体防災に関する課題・可能性について学ぶ。

16:30～18:00

4 限：小規模自治体先進事例

講師：日野宗門 財団法人消防科学総合センター研究開発部長

概要：災害予防対策、災害応急対策等に関する小規模自治体の先進事例を紹介するとともに、その事例の防災対策における実践的な意味を解説する。

18:30～20:00

5 限：討論会

概要：阪神・淡路大震災時の事態・対応等についてグループ毎に討論・検討を行う。(センター「防災未来館」3階展示部門において実施)

2月3日(火)

10:00～11:30

1 限：自治体に望まれる災害対応力

講師：務台俊介 総務省消防庁防災課長

概要：防災に関する各種支援制度（補助金等）の背景（考え方）や国として自治体に期待する事柄等について紹介するとともに、自治体財政の現状等も踏まえ、防災対策に関して自治体に望まれることについて講義いただく。

12:45～14:15

2 限：自助・共助による防災

講師：室崎益輝 上級研究員

概要：行政の限界（公助の限界）を念頭に、災害応急対応時における住民と協働した効果的な防災活動（避難所自主運営等）やその準備としての予防対策等について学ぶ。

14:30～16:00

3 限：危機管理総論 - 小規模自治体のために -

講師：河田恵昭 人と防災未来センター長

概要：国内外の小規模自治体の対応事例やこれまでに得られている防災に関する知見の紹介等を交え、小規模自治体が進むべき道について学ぶ。

16:00～16:20

4 限：閉講式